

当院において乳癌・卵巣癌・膵臓癌・前立腺癌の手術をお受けになった患者さん並びに骨髄穿刺検査をお受けになった患者さんへ

当院では「癌の進展・増殖に関与する細胞周期関連分子の病理学的解析」を実施しております。この研究は癌細胞が増えるときに、どのようなタンパクが癌を悪性化させているのかということを検証する基礎的な研究です。研究の概要・目的・研究の方法は以下のとおりです。通常、癌の切除手術を受けると癌の「悪さ」を決めるため病理学的な検索が行われます。また同様に骨髄穿刺検査でも病理学的な検索が行われます。通常これらの検体はカルテと同様に一定期間保存しております。我々はこれらの保存されている乳癌、卵巣癌・膵臓癌・前立腺癌の検体を用いて研究を行っております。具体的には2008年1月から2020年12月に受けられた患者さんの検体を対象としております。また、前立腺癌に関しては、2000年1月から2020年3月の間に東京慈恵会医科大学附属病院にて採取された前立腺癌の検体も研究の対象としております。通常の病理診断を終え保管されている検体のごく一部を使用する研究ですので、患者さんお一人ずつの直接のご同意を頂かずに、この患者さんへのお知らせをもって当院に通院中の患者さんからのご同意を頂いたものとして実施されます。また、この研究を遂行するにあたり、患者さんにしていただくことは全くございません。患者さんにおかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、この研究へのご参加をご希望なされない場合、研究に関するご質問は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究題名：「癌の進展・増殖に関与する細胞周期関連分子の病理学的解析」

承認番号：M2000-1458

研究期間：医学部倫理審査委員会承認後から令和6年3月31日

研究責任者：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科包括病理学 倉田盛人

共同研究機関：東京慈恵会医科大学附属病院 研究責任者 梅森宮加

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 電話：03-5803-5175

(2) 研究の意義・目的について

癌細胞の細胞周期関連分子を解析し、癌細胞が体の中でどのように増えて、どのようなタンパクが癌を悪性化させているのか、ということを検証する基礎的な研究です。その為、現在の治療とはすぐに結びつきませんが、今回我々が得た成果が将来的に癌治療への懸け橋になることを目指しています。

(3) 研究の方法について

通常、癌の患者さんから手術によって取られた検体、または骨髄穿刺検査によって得ら

れた検体は、附属病院の病理部において癌の性質を調べるため病理検査が行われます。我々は、この診断が終わった患者さんの検体を用いて、機能が十分解析されていないMCM family、Ki-67、Geminin、Aurora A、Plk1、H3S10phやMYCという細胞周期関連分子とその関連分子の発現について研究を行います。具体的には、組織を